

令和4年度 第2回 気仙沼地区教科用図書採択協議会 議事録

○日 時 令和4年7月25日(月)
午前10時～午前11時20分

○場 所 気仙沼市役所魚市場前庁舎 第1会議室

○出席委員 委員(会長) 小山 淳 気仙沼市教育委員会教育長
委員(副会長) 齊藤 明 南三陸町教育委員会教育長
委員(監事) 芳賀 洋子 南三陸町教育委員会事務局長
委員 尾形 浩明 気仙沼市教育委員会学校教育課長

○説明員(代表専門委員)

代表専門委員 伊東 毅浩 面瀬中学校校長
学校教育法附則第9条の規定による教科用図書

○出席職員(事務局)

事務局員 清原 規史 気仙沼市教育委員会学校教育課主幹兼学事係長
事務局員 三浦 玲子 気仙沼市教育委員会学校教育課主幹

※開会に先立ち、記録係として気仙沼市教育委員会 三浦主幹の出席について了承を得る。

1 開 会 (午前10時)(進行:清原)

2 挨拶(小山会長)

採択に係る協議も大詰めを迎えており、審議には公平公正が求められるものである。本日も慎重に審議を進めたいと考えているので、本日もどうぞよろしくお願いしたい。

3 会議録署名委員の指名

南三陸町教育委員会 齊藤委員にお願いする。

4 協 議 (議長:小山会長)

(1) 報告第1号 令和5年度使用教科用図書に係る選定審議会答申について(説明 清原)

- 答申書を読み上げて報告
- 質疑なし
- 承認

(2) 報告第2号 令和5年度使用教科用図書採択調査研究資料について(説明 尾形)

- これは7月6日に本吉公民館において開催した専門委員会で作成した調査研究資料であ

る。こちらについての詳細説明を伊東代表専門委員より説明をいただく。

(伊東代表専門委員 入室)

○ 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の調査研究について報告
別紙調査研究資料のとおり説明。

○ 質疑

- ・ 齊藤委員 先ほど説明のあった『チャイルドブックこども百科 くらしとぎょうじの生活図鑑』の評価内容のうち、「(3) 学習と指導に関すること」で基本的な生活習慣に関わる内容として、「漢字にはすべてルビが付いており、低学年の児童への配慮がなされている。」とあるが、このような配慮は低学年に限ったことではないのではないか。ルビが付いているということはどの学年の子どもにとっても良いことではないか。この図書を使用するのは低学年、高学年どちらということになるのか。
- ・ 伊東代表専門委員 特に低学年の使用も考えられるが、その子どもに一番合った図書を選定するため、中学生までこの図書を使用することも想定される。理解が十分ではない子どもにもルビがあることでこの図書による理解が進み、使用されると思う。調査研究資料の中で、多くの図書に「ルビが付けられていること」を評価の一つとしたが、学年は関係ないと思われる。
- ・ 齊藤委員 『はっけんずかん しょくぶつ』について、非常に字が小さく、ひらがなの数が多いなど余りにもボリュームもあるように思う。低学年などは使っていて大変なのではと感じる。専門委員会ではそのことは意見としてなかったか。
- ・ 伊東代表専門委員 専門委員会ではその内容の意見はなかった。自分の経験で話させてもらうと、普通学級で使用する検定教科書と違い、購入した一般図書をその年度内で使い切るというのは難しいもことであり、次年度も使用するということもある。購入した年度に絵だけでも理解ができる、色に反応するなど使用する子どもの実態が様々であるため、選定する担任は大変な部分もあるが、1冊の図書にこれだけのボリュームがあるというのは選択肢の一つとして選定の際の材料になると考える。
今年度新規に選定資料に追加された一般図書は8冊だが、仮に20冊、30冊がその対象となっても、表紙にも様々な工夫があり、使用する側の興味・関心も様々であるため、調査研究を行う中で一定程度の評価になるかと思う。
- ・ 齊藤委員 『くらしに役立つ国語』ですが、表紙からは他の一般図書に比べ面白さに欠けるというか、「教科書」という雰囲気を感じられ、中身も通常学級で使用しても指導しやすいのではないかと思う。これだけ実生活に役立つような資料はないのではないか。「領収書」など様々な書類の見方などレベルの高さを感じ、将来的な「自立」を前提に考えられていることが感じられる。
- ・ 伊東代表専門委員 将来的な一般就労を目指す子ども用のレベルであると感じる。普段の小学校、中学校でここまで指導することは難しい。社会参加に向けたその子どもの質の向上に向けた取組ができるかと思われる。
- ・ 小山委員 今回、選定資料に追加された『新レインボー はじめて英語辞典』や「図鑑」とタイトルに入っている図書について、情報量が豊富で辞書的な使い方をするものと一般的な教科書の代わりに使うものの2通りに分けられるかと思うが、実際に情報量が多い辞典も使用

しているケースは多いものか。

- ・伊東代表専門委員 前年度の担任が選定した教科書が引き継がれるわけだが、新年度は程度の違うものを検討したり、基本的に教科書と辞典や図鑑は使い分けして使用することになる。授業の様々な場面で、図鑑のこのページが使えるといったような、教材に近い、担任として引き出しがたくさんあるという状態となり、辞典も教材として重要である。書店にも図鑑類はDVD付きで売られているが、一般図書はそれに比べると丁寧に目線を下げて作られていると感じる。
- ・齊藤委員 初めて『新レインボー はじめて英語辞典』を手にとった時に、普通の辞典ではないかと感じた。図鑑についても特別支援学級の子供たちは写真を見るだけでも喜んでいると思う。英語の辞書ということでも使いやすいのではないか。書店で売られていても子どもあるいは家族が買うなど、教科書と違い、限定されたものではなく、普段売っているようなものが一般図書の対象になっているという考え方なんだと感じた。敷居が低いというか。
- ・伊東代表専門委員 自分も全ての一般図書を把握しているわけではないが、ハードカバーで壊れにくく、絵も大きく、図鑑のようなもの、また話しの内容も昔話のような読み物、資料的なものが多かったと思われる。先日の専門委員会の際に感じたことは、今回の一般図書を見て、児童生徒の実態や社会も変動を遂げる中、図書の内容、幅もかなり広がっていると受け止めた。

○ ほかに質問等がないため報告終了

(伊東代表専門委員退室)

- ・小山議長 これより通常の協議会に戻りまして、伊東代表専門委員より説明をいただきましたけども、先ほどの質疑で尽きているということですのでよろしいですね。
また、調査研究資料の内容に関して採択を進めていくことでお認めいただけますでしょうか。

○ 承認

(3) 議案第1号 令和5年度使用教科用図書の採択について(説明 尾形)

○ 採択については、次の2点になります。

まずは、通常の教科用図書の採択、次に、その特別支援学級用の教科用図書、いわゆる一般図書の採択となります。

1点目、通常の教科用図書についての説明だが、令和5年度の使用の教科用図書については、採択替えしないという基本原則であるので、その方針を踏まえたうえで採択をお願いしたい。

資料としては、昨年度当協議会で採択した教科用図書の一覧表を基に作成した案である。

次に、一般図書について採択についてお諮りする。

資料としては、これらの一般図書の見本と専門委員会で作成した調査研究資料、それから様式B及びCである。

なお、一般図書は、昨年度採択した教科用図書のうち、供給不能などの理由から除外された図書と新たに加わる図書という形になる。

また、学級で選ぶのではなく、それぞれの児童生徒に合った一般図書を担任の先生が選ぶという観点からC表については、これまでの教科書を含めた中からの希望となっている。説明は以上である。よろしく願いたい。

- ・小山議長 まずは、原則として通常の教科書については、採択の年ではないので昨年度までに採択をした教科書をそのまま継続をする原則に沿う形で進めるということによろしいか。
 - 承認

- ・小山議長 次に一般図書については、小中学校から提出された採択計画書の内容、希望校数なども含め意見が挙げられ、資料として添付されている。今回新たに加わった8冊の一般図書について、念のため調査研究資料を基に1冊ずつ確認したいと思います。質問あるいは意見があれば願いたい。
～意見、質疑無し～

- ・小山議長 質疑等はありませんので一般図書8冊を一括して採択することについて意見はありませんか。

- ・齊藤委員 今年度の教科用図書採択調査研究資料の小中学校特別支援学級用の資料と伊東代表専門員からの丁寧な説明を聴いて、いずれも8冊は特別支援の学級の子どもたちの実態に合わせてながら使用する一般図書として相応しいと思うので、8冊とも採択ということによいと思う。

- ・小山議長 その他の意見はないか。

- ・委員 なし。

- ・小山議長 それでは、8冊一括で、調査研究資料、教科書の見本、さらに代表専門委員の報告、それから質疑応答、それらを総合して、本市の特別支援学級用の一般図書として加えることが妥当であるという結論によろしいか。

○ 承認

- ・小山議長 それでは、お認めを頂きました。予定していた議案は以上ということになります。

5 その他（令和5年度負担金について）（説明：清原）

○ 資料に沿って説明

- ・齊藤委員 専門委員会の開催について今年度は1日だったが、来年度も1日で大丈夫なのか、委員の方々からもう少し時間が欲しいという声はなかったか。県では3日程必要になるが、地区協議会単位であれば、1教科5.6人で調査・研究を2.3日というものも大変なことであると思う。予算の関係もあると思うが。

- ・事務局 1日という日程は厳しいかもしれないが、あらかじめ、専門委員の先生方のスケジュールの調整をお願いし、対応可能であることを確認している。採択年度のこれまでの経過を確認しても1日の開催であったようである。

- ・小山議長 それでは、事務局案をお認めいただけますか。

○ 承認

6 閉会挨拶（齊藤副会長）

第1回の協議会から第2回の本日までの1か月以上をかけて、選定審議会、専門委員会の調査研究資料、県の資料、さらには調査研究の代表者の御意見、それから各学校の採択希望を鑑み、無事に本日の慎重な審議の結果、子どもたち一人ひとりの実態に応じた授業で役立つ図書が採択され、あるいは採択替えをしないというようになりました。本当に良かったと思ひ、ここまで事務局の大変な御苦勞があったことに対し、感謝を申し上げます。来年度も子どもたちの学校生活が楽しく、多くの教科書を使用することで学びが一層深まることを祈念して挨拶いたします。

本日は大変御苦勞様でした。

7 閉会（午前11時20分）

上記記録の正確なるを認め、ここに署名する。

令和4年7月25日

会議録署名委員

齊藤 明